

世界遺産
五箇山
【合掌造り集落】

南 TOYAMA NANTO 砺



世界遺産
五箇山
【合掌造り集落】

南 TOYAMA NANTO 砺



明日、旅しよう

「はじめて」の南砺なんと

深く美しい山々と、

庄川、小矢部川によって

潤った田園地帯を持つ南砺市。

古くから浄土真宗の信仰が厚い

この地で育まれた文化、暮らしなど、

南砺地域独特の力に、

民藝運動みんげいの創始者・柳宗悦は

「土徳」どとくを見出しました。

合掌造り集落で知られる五箇山は、

独自の文化を持ちながら人々が暮らす、

まさに「生きた世界遺産」。

田園に広がる「散居村」さんきょそんも、

この地方独特の

特別な風景のひとつです。

中世から近世にかけて

絹織物で栄えた城端や

木彫りで知られる井波には、

薫り高い歴史と文化が息づき、

棟方志功が暮らした福光、

市場町として栄えた福野、

椿の里の井口、

演劇と都市交流の利賀など、

南砺の里山は、いつも旅の魅力にあふれ、

人々は温かい笑顔でむかえてくれます。

そんな特別な旅の日々を、

南砺で過ごしてみませんか。



世界に誇る 合掌造りの里

暮らしが、世界文化遺産「五箇山」



ドイツの建築家で、日本建築の美しさを世界に紹介したブルーノ・タウトが魅了され絶賛した五箇山の風景。四季折々の風景が楽しめます。(上/菅沼集落 下/相倉集落)



豪雪地帯として知られる五箇山。ピーク時には、1階部分は雪で埋もれてしまうことも。この厳しい環境に合わせて生きてきた生活の知恵が、今もそこかしこに息づいています。

日本の原風景が残る集落。

まるで昔話に出てくるような、懐かしい風景が今も残る五箇山。平成7年(1995)、白川郷荻町とともに世界文化遺産に登録された相倉と菅沼の集落は、江戸から大正時代にかけて建てられた合掌造りの建物が現存し、今も人が暮らす場所でもあります。

その建物の形は名が表す通り、掌を合わせたような大きな茅葺き屋根が目を引きまします。これは、冬に大量に降り積もる雪が落ちやすいよう、約60度という急勾配の切妻造りとなっています。そして、これらの家々は今に至るまで大切に受け継がれています。手入れを怠らず、大切に守りながら住んでいるため、往時をしのぼせる姿が、ほぼそのまま残っているのです。これこそが、この地の魅力であり最大の特徴といえるでしょう。

「生きた世界遺産」とも称される五箇山。その理由は、過度に観光地化せず、人々の暮らしが今も大切に守られ、受け継がれているから。合掌造りだけでなく、小川の流れや田んぼのあぜ道といった風景すべてが、住まう人たちの絶え間ない努力によって守られています。日本という国が、経済成長とともにどこかに忘れ去ってしまったような、古き時代からの美しい原風景が、ここにはあるといえるのではないのでしょうか。

日本の世界文化遺産 ※登録順

- ① 法隆寺地域の仏教建造物 (1993年12月)
- ② 姫路城 (1993年12月)
- ③ 古都京都の文化財 (1994年12月)
- ④ 白川郷・五箇山の合掌造り集落 (1995年12月)
- ⑤ 原爆ドーム (1996年12月)
- ⑥ 厳島神社 (1996年12月)
- ⑦ 古都奈良の文化財 (1998年12月)
- ⑧ 日光の社寺 (1999年12月)
- ⑨ 琉球王国のグスク及び関連遺産群 (2000年12月)
- ⑩ 紀伊山地の霊場と参詣道 (2004年7月)
- ⑪ 石見银山遺跡とその文化的景観 (2007年6月)
- ⑫ 平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群 (2011年6月)
- ⑬ 富士山—信仰の対象と芸術の源泉 (2013年6月)
- ⑭ 富岡製糸場と絹産業遺産群 (2014年6月)
- ⑮ 明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業 (2015年7月)
- ⑯ ル・コルビュジエの建築作品—近代建築への顕著な貢献— (2016年7月)
- ⑰ 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 (2017年7月)
- ⑱ 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産 (2018年7月)
- ⑲ 百舌鳥・古市古墳群 (2019年7月)



日本最古の民謡ともいわれる「こきりこ」。こきりこ祭りは、この歴史ある民謡を全身で感じることができる、貴重な機会です。



9月は、麦屋節など五箇山民謡をお楽しみいただける「五箇山麦屋まつり」も開催されます。こきりこ祭りでは、参加者が一緒になって「こきりこ」を踊る「総踊り」も開催され、すげ笠を手にした若衆の踊りは実に勇ましく、会場が張りつめた空気に包まれます。誰もが踊りの輪に加わって楽しむことができます。



五箇山の建物は、古いものは400年前に建てられたといわれます。



屋根の葺き替えや田植えなど人出が必要な作業は、「結」の制度のもと助け合い、住民が総出で行います。



住民同士のつながりを強くしたのは、やはり合掌造りの建物。囲炉裏の炎を囲み、親睦を深めました。



合掌造りの上階部の床はあえてすき間を明けて、囲炉裏の熱や煙を通します。風通しをよくすることで防虫・防腐に役立っています。

五箇山は民謡の宝庫。口頭で伝承された文化遺産。



伝説を感じる歌と踊り。

五箇山は、平家の落人や南朝方の武士の末裔が定住したという伝説が残っています。真偽のほどは定かではないものの、その説を信じさせる力を持つのが、この地に伝わる民謡の数々です。上梨の「こきりこ」、下梨の「麦屋節」などといった、古くから歌い継がれる民謡の調子や舞い姿は、どこかに古えの人々の凛々しさや悲哀が感じられます。これらは、昭和48年（1973）に「五箇山の歌と踊り」として国の無形文化財に選択された、唯一無二の貴重な伝統芸能です。

こきりこで使われる「ささら」は、ヒノキの板を組み合わせたシンブルな楽器で、その素朴な音が歌に力を添えてくれます。大切に受け継がれた歌と踊りが、この地には息づいています。

大きな合掌屋根の下で生まれ、営まれる、昔のままの暮らし。

支え合いの精神「結」。

合掌造りの集落で最も目を引くのは、やはり茅葺き屋根。しかしこの葺き替え作業は大変な労力がかかるうえ、15〜20年に一度は行わないといけません。そんな環境で育まれたのが、住民同士の互助制度「結」です。これは、厳しい生活環境の中にあつて、室町時代にこの地に伝えられた浄土真宗の教えに基づいているともいわれます。

この「結」、あるいは「合力」によって、昔から大切に受け継がれた合掌造りの建物は、住居であるとともに家計を支える工場でもありました。藩政期には加賀藩の密命を受け、床下で火薬の原料となる塩硝をつくりていました。また、土間では和紙を漉き、上層部分では養蚕も行うなど、家が住民の暮らしの中心であり続けたのです。交通網が発達する以前は、「秘境」と称されたこともある五箇山。それだけ厳しい環境でも、この「結」があつたからこそ、力を合わせて乗り越えることができたといえます。

今も昔も変わらぬ姿で残る、合掌造りの家々。その屋根の下では、昔のままの穏やかな時間が流れ、暮らしが営まれています。

土徳と棟方志功

普遍的な土地の力、人々の信仰心と生き方が与えた影響力。

昭和20年（1945）、民藝運動の創始者柳宗悦が南砺に疎開していた棟方志功を訪ねた際、これまでの棟方の作品世界にあった強い我執が消え、魅力が大きく開花していることに驚かされたといえます。棟方の内面に大きな変化が起こったのだと気づかされた柳は、南砺独特の信仰風土が人を育てる力を持っていることを知り、そこに「土徳」を見出したといっています。

南砺地方では、紳如上人、蓮如上人によって布教された浄土真宗のもと、「講」と呼ばれる寄り合いで仏の教えを学んできました。蓮如上人の弟子・赤尾道宗によって浄土真宗が浸透した五箇山では、今でもその教えのもと、互いに支えながら暮らす「結」「合力」と呼ばれる精神が人々を繋いでいます。以来、何世代にもわたって積み重ねられた念仏の生活の中で、誰もが「生かされている」ことに感謝しながら生きていく……。そんな、南砺の精神風土の根底に流れている他力本願の思想が与えた影響力を、棟方自身、「身をもって阿弥陀仏に南無する道こそ、板画にも、すべてにも通ずる道だったのだ」ということを知らされ始めました。『板橋道中央公論新社』と表現しています。また、「仏さまのなすがままに、自分は道具になって動いているだけ。自分の仕事ではなく、いただいた仕事なのだ」とも。

棟方志功の心に響き、柳宗悦の民藝美論に新たな方向性を与えた南砺の「土徳」。その無心の力は、偉大な思想と芸術を育み、今も南砺に息づいています。



「鯉雨画齋」とは、“鯉も雨が降れば龍にもなろう”という、棟方流の洒落を効かせた命名。厠の壁と天井には、一面に天女や観音様がびっしりと描き込まれ、棟方の自由な発想と作風が見られます。



昔ながらの町家が残る福光新町商店街「あさかお通り」。福光の各所に棟方志功と人々との交流の足跡が残されています。



光徳寺や南砺市立福光美術館では、棟方志功の作品を常設展示しています。(写真は光徳寺)

福光の豊かな自然と、阿弥陀仏に南無する道。棟方志功が自由に作品を生みだした舞台がここにある。



昭和21年（1946）、棟方志功が新居として建てた「鯉雨画齋」。現在は棟方志功記念館「愛染苑」の前に移築、公開されています。新居のころは、小川のせせらぎと窓からの山々の眺望に恵まれていました。



棟方志功が福光に疎開していた際、地元の人々と親交があり、当時やり取りがあった手紙などからも棟方の足跡をうかがうことができます。(写真は日の出屋製菓福光新町店)



棟方志功が描いた『無事』の文字。熱心な棟方ファンだった旧国鉄職員が、昭和22年（1947）に鉄道事業の安全無事を祈って棟方に願い入れ書いてもらったもので、当時駅舎に掲げられていました。現在はレプリカを展示、実物は福光美術館に所蔵されています。

棟方志功作品展示施設

- 南砺市立 福光美術館
南砺市法林寺2010 Tel.0763-52-7576
- 棟方志功記念館「愛染苑」
南砺市福光1026-4 Tel.0763-52-5815
- 躑躅山 光徳寺
南砺市法林寺308 Tel.0763-52-0943





上／山宿は神様をお迎えする家のことで、担当した家にとって晴れ舞台。豪華な屏風や生花、お供え物で御神像を飾り、一般に公開します。
右／高さ6メートルにもなる屋形式二層の人形山を支える、曳山の大きな車輪。
左／5月4日の宵祭では、御神像をお乗せしない曳山と庵屋台が展示されます。



伝統工芸の 心と技

暮らしの中に、傑出した意匠が息づく



現在は小原好喬氏が十六代小原治五右衛門として城端蒔絵の技を受け継いでいます。小原家でも代々曳山や御神像の装飾を担い、祭りを支えています。

越中の小京都と呼ばれる城端のきらびやかな文化。

曳山展示施設

■城端曳山会館
南砺市城端579-3
Tel. 0763-62-2165



城端曳山祭 毎年5月4日(宵祭)・5日開催

「城端神明宮祭の曳山行事」として平成14年(2002)に国の重要無形民俗文化財に指定。平成28年(2016)12月、ユネスコ無形文化遺産に登録。獅子舞の先導で、鉦、傘、四神旗、3基の神輿などが行列、後に庵屋台と曳山がお供するという、古い神迎え行列の形式を守り伝える祭りです。

祭りを支える城端蒔絵の技。
ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形民俗文化財「城端神明宮祭の曳山行事」。

山の緑が濃くなる5月。城端の町並みに雅な庵唄が響くとき、300年の伝統を誇る「城端曳山祭」がはじまります。年に一度、6体の神像を「山宿」と呼ばれる美しく飾った座敷に一晩お迎えし、翌日には御神像を「曳山」にお乗せして街中を巡行します。

享保年間(1716〜1735)より名工たちの手で作られてきた曳山には、井波彫刻や城端塗の技の粋をつくした装飾が施され、華麗優雅な美術品として祭礼を彩りつつ、かつての町の栄華を今に伝え続けています。

鮮やかな彩漆に繊細な蒔絵の技法。その技術の高さと美しさは、加賀藩五代藩主前田綱紀が諸国名工の最高水準技法を集めた資料「百工比照」の中に、「城端塗」として加えていることから、うかがい知ることができます。

*奈良時代、中国大陸から伝来した技術で、平安時代初期頃までに制作された油彩装飾絵画やその技法を「密陀絵」といいます。

漆黒に浮かぶ「白」の世界。
城端蒔絵という一子相伝の技法。

天正3年(1575)佐々木又兵衛之綱が、城端の木工町にて塗師屋を家業とし「城端塗」の基礎を築きました。その孫徳佐衛門信好が、一族畑治五右衛門好永の長崎で学んだ「密陀絵」を受けつぎ、さらに工夫を加えて「白蒔絵」の特色をつくりました。密陀絵は国宝の玉虫厨子(法隆寺蔵)などに見ることが出来るものの、漆から白を発色させることは不可能とされてきました。城端蒔絵はこの白色を表すことを特色とし、440年にわたり一子相伝として今日まで小原家に継承されています。小原家は、四代目に「佐々木」から「小原」と改姓し、六代目以降代々小原治五右衛門を襲名しています。

【城端蒔絵】

じょうはな・まきえ



上／瑞泉寺の伝統行事「太子伝会」。約300年前からの歴史があるといわれ、掛け軸の絵をもとに聖徳太子の一生が語られます。
 下／まちの中心を貫く八日町通り。ここには数多くの彫刻工房が軒を連ねます。石畳が続く街並みは落ち着いた風情で、歩くだけでもタイムスリップしたような気分。
 左／富山では、菅原道真公を表したといわれる「天神様」への信仰が厚く、井波彫刻でも盛んに制作されています。職人の手仕事により生み出された逸品が、ここ井波ならたくさんの中から直に手にとってお選びいただけます。



井波彫刻の祖といわれる、前川三四郎の作が今も残っています。山門の「雲水一疋竜」です。華麗かつ力強い作風で、井波彫刻の特徴を見事に表しています。

町のいたるところで意匠に出会える。

彫刻のまちに息づく職人氣質。

井波彫刻の歴史が始まったとき、わずか4人だった職人が、現在では約200人となりました。若い職人も多く、わざわざ県外から移住する人もいるように、井波は彫刻とともに歩み続ける町といえます。

その技術レベルは実に高く、工程も複雑。仕上げまでに200本以上のノミ、彫刻刀を使い分けます。代表的なものは、全国から注文が寄せられる欄間や衝立などの調度品。これに加えて獅子頭や曳山など祭りに欠かせない品もつくられており、井波の技が大切な行事を支えているといえます。近年では彫刻師がギターを制作したことが全国的に話題を集めたように、伝統を生かしつつ新たな試みにも積極的に取り組んでいます。

その技術を若い世代に伝えるための工夫も工程に隠されています。師がざっくりと形を掘り出す「粗落とし」をしたあとに、仕上げを弟子が行うのです。先人が築いた財産を次代に着実に伝える仕組みが、この地には息づいています。



真宗大谷派 井波別院 瑞泉寺
 明徳元年(1390)、本願寺五代純如上人により建立され、戦国時代には170の寺院を支配した古刹。現在の本堂は明治18年(1885)に再建されたもので、木造建築として北陸最大級の大きさです。

【井波彫刻】 いなみ・ちようこく

瑞泉寺とともにある技。

約250年の歴史を持つ井波彫刻は、井波のシンボルである瑞泉寺がなくては生まれませんでした。明徳元年(1390)に建立されたこの寺は、宝暦13年(1763)に火災で消失。再建のために井波に派遣された京都本願寺の御用彫刻士・前川三四郎が、地元の大工らにも自らの技を伝えたことに始まります。上質な木材が入手しやすかったことも、彫刻の隆盛を後押ししました。

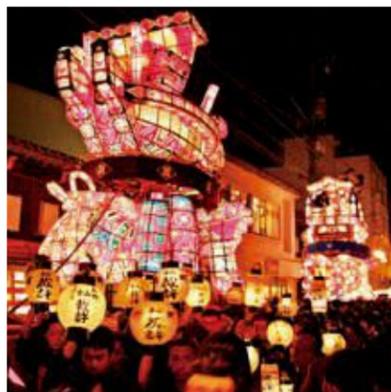
現在まで脈々と受け継がれる技術力は、発端である瑞泉寺の随所で見られます。前川三四郎の作が残る山門や、井波彫刻の興隆期である明治・大正期に再建された本堂・太子堂のいたるところに、井波彫刻の粋といえる作が飾られています。

平成30年には、瑞泉寺・井波彫刻を含め33の構成文化財が「宮大工の鑿一丁から生まれた木彫刻美術館・井波」として日本遺産にも認定されました。



ひかいの 向野の江戸彼岸桜 (城端)

山田川の堤防沿いに佇む江戸彼岸桜の大木です。開花時期には、県外からも多くの見物客が訪れ、夜間のライトアップされた姿もまた、昼間とは違った幻想的な美しさです。



よたかまつり 福野夜高祭 県指定無形民俗文化財(福野)

福野神明社の春の祭礼で、5月1日、2日の宵祭りには、威勢のよい掛け声とともに夜高行燈が練り回され、2日の深夜には行燈の引き合い(壊し合い)となります。



がんにょうかく 福野高校 巖浄閣 国指定重要文化財(福野)

旧富山県立農学校本館として、明治36年(1903)に建築。縦長上下の窓や正面中央の屋根など、いたるところに洗練された意匠が表現された、明治期を代表する貴重な木造二階建ての洋風建築物です。



富山県利賀芸術公園 (利賀)

今や国内外の演劇界から注目を浴びている演劇の地です。池を擁した野外劇場や合掌造りの劇場に、世界各国の演劇人が集結する演劇祭などが開催され、大自然の中で素晴らしい芸術に触れることができます。



ぎよくはい 福光玉盃 (福光)

小矢部川の河原に産する自然石を加工するため、同じ色・模様は二つとない玉盃。美しい色あいと熟練の職人技によって生まれた光沢には独特の気品があり、見る者を魅了します。



めいそう さと まんだら 「瞑想の郷」の曼荼羅 (利賀)

旧利賀村は、チベット仏教を信仰するネパール王国・ツクチェ村と、様々な交流を深めてきました。展示されている巨大曼荼羅は、ツクチェ村出身の絵師を招き1年かけて完成しました。



いのくち椿館 (井口)

椿の研究と保存を目的として開館されました。南砺市の山々に自生しているほか各家庭の庭先でも見かける、この地で馴染み深い花「椿」を中心に貴重な品種を展示栽培しています。



福光ねつおくり七夕祭り (福光)

江戸時代から続く「ねつおくり」は、病虫害の被害を防ぎ農作物の豊作を願う行事です。この伝統行事に合わせて福光商店街を中心に太鼓のねり打ちや民謡街流し、花火などのイベントが繰り広げられます。

天然素材を生かす、心と技。

【五箇山和紙】

こかやま・わし

丹念に丁寧に仕上げられる、楮100%の和紙。混ざりけがない正直な紙は、何百年ともつ。五箇山地域では、古くから加賀藩の産業のひとつとして、楮を原料にした和紙作りが奨励されてきました。現在は国の伝統的工芸品にも指定され、良質の和紙の産地として知られています。五箇山での和紙作りは材料となる楮の植え付けに始まり、楮の皮剥ぎ、雪さらしへと続きます。昔から変わらない手作業で漉かれる和紙は貴重な存在。しなやかさを持ちながらも強い五箇山和紙は、文化財の古文書などの修復用にも使われています。



①楮の皮を剥いでからさらに黒皮をこすり落とし、雪の上に広げ、紫外線的作用で白くなるまでさらします。②今も極寒の中、一枚一枚丁寧に、手作業で漉きあげられています。③障子戸だけで雨風や雪を防げるのは、五箇山和紙の強じんさのなせる技。繊維が柔らかいので温かみも生まれます。④現代では五箇山和紙の良さを生かし、小物やインテリアにも広く使われています。

【城端絹織物】

じょうはな・きぬおりもの

絹糸が織りなす、しなやかで美しい世界。時代とともに磨かれてきた城端の絹織物。城端で絹織物が始められたのは、今から約430年前、戦国時代末期と伝わっています。かつて養蚕が盛んだった五箇山からもたらされた繭は、城端の織布技術によって上質の絹織物へと仕上げられ、江戸時代には京都、大阪からさらに江戸へもその市場を広げるほどの隆盛を見せました。時代とともに、紹や紗、羽二重など多種多様な絹織物を生産。現在も絹織物の特産地として知られています。



①江戸時代、五箇山から届けられた繭を使った「城端絹」は「加賀絹」として加賀藩によって庇護され発展しました。②色がきれいに染まるのも絹の特徴です。③昭和3年(1928)に城端織物組合事務棟として建設された建物を利用した「じょうはな織館」(国指定登録有形文化財)では、機織物の手織り体験ができます。

南 砺 の 逸 品

南砺の魅力、あつめました



室で手作業する
石黒麹店四代目の
石黒八郎氏。



生成りの種麹。



美しい麹の花。

種麹

(福光)

種麹とは麹の素となる菌のことで、種麹を作る店は全国でも10軒足らず。南砺市福光の「石黒種麹店」は、北陸で唯一、明治28年(1895)の創業以来、門外不出の製法により種麹を作り続けています。麹菌を純粋培養する作業は昔とまったく変わらない手作業のみ。その種麹を使って専用の室に入ってから厳しい仕事から作られた麹は、一粒一粒、米の芯まで発酵が行きとどき、美しい麹の花となります。100種以上の酵素を作り出す生きた麹菌のパワーが、旨みや味わいをもたらしてくれます。

「土」の滋養、「水」の潤い、「里」の技。

素朴で上質な文化の息づく南砺。
その暮らしにはお祝い事の引き出物を近所におすそわけする風習があります。
この風習を贈り物にかえ、全国の皆様にお届けします。
先人から受け継いできた食文化や職人の技をお楽しみいただければ幸いです。



富山干柿

(福光・城端)

地元産「三社柿」で作られる干柿で、柿の皮をむき、ゆっくり乾燥させます。
糖度が高いことから、果糖が結晶となり、表面に白い粉がふいたようになります。柔らかい果肉と豊かな甘みが楽しめます。



五箇山豆腐

(五箇山)

富山の大豆と五箇山の澄んだ水を使い、伝統の製法で作られます。縄で縛っても崩れない堅さは、大豆の旨みが凝縮されている証拠。ずっしりと食べ応えがあります。



地酒

(五箇山・井波・福光)

南砺の厳寒の冬に地元産の米と良質な水で仕込むことによって、美味しい地酒が生まれます。南砺には3つの酒蔵があり、それぞれ全国的にも人気の高い銘酒を製造しています。



赤かぶ

(五箇山)

冬の保存食としてこの地で重宝されてきた赤かぶ。五箇山の特徴である、昼夜の大きな寒暖の差が、この鮮やかな色を生み出します。漬物にして食感と甘みを楽しむのがおすすめです。



柿もち

(五箇山)

五箇山では、今でも柿もちを作る家庭が多くあります。近くの山でとれた柿の実を使い、完成まで1カ月近く手間をかけて作られる柿もちは、ほろ苦い素朴な味わいで観光客にも人気です。

自然と人の知恵の結晶 南砺の発酵文化

南砺では雪深い厳冬期の保存食づくりに、古くから「発酵」による加工技術が用いられてきました。冬の寒さと降雪、微生物の活動に適した湿度など、自然環境に恵まれた南砺は、さながら発酵王国ともいえるでしょう。南砺の良質なお米から生まれる麹や糠なども、多彩な発酵食品を作るのに欠かせない、大切な役割を担っています。



かぶら寿し

(南砺市全域)

昔はこの家でも手作りされていた発酵食品の代表格。カブに寒ブリや塩サバを挟み、麹で漬け込み発酵させます。



さばのなれ寿し

(城端・井波)

酢を使わず、米と塩、米麹などで発酵させた「さばのなれ寿し」。瑞泉寺や善徳寺では、「さば寿し」として、夏の法会の参会者に供されます。

南 砺 の 逸 品

詳しくは、公式HPをご覧ください。
<https://www.nanto-ippin.jp>

南砺の逸品 検索

・南砺の逸品お問合せ先

道の駅福光株式会社 TEL.0763-52-4100
〒939-1625 富山県南砺市中ノ江21 FAX.0763-52-4150



なんと
の
おすそわけ

南砺へのアクセス

北陸・飛騨・信州を巡る3つ星街道の旅

南砺市の世界遺産「五箇山」は、城下町「金沢」から車で約45分。岐阜県との県境を挟んで世界遺産「白川郷」と隣接しており、さらに足を伸ばすと「飛騨高山」・「松本」につながります。歴史的に深いつながりを持つこれらの地域は、ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンに3つ星で紹介されています。ぜひ、街道沿いに広がる日本の原風景を満喫してください。



鉄道 (JR) の所要時間		
東京駅 (約4時間)	名古屋駅 (約4時間30分)	大阪駅 (約4時間)
北陸新幹線 3時間	特急しらさぎ 3時間	特急サンダーバード 2時間40分
	金沢駅 15分	
	新高岡駅 50分	
	城端駅 (JR城端線) 50分	

高速道路の所要時間		
東京 (練馬IC)	関越・上信越・北陸・東海北陸自動車道 > 福光IC	南砺市 (約6時間)
大阪 (吹田IC)	名神・北陸・東海・北陸自動車道 > 福光IC	南砺市 (約4時間)
名古屋 (名古屋IC)	名神・東海道自動車道 > 福光IC	南砺市 (約2時間30分)

バスの所要時間		
名古屋	名古屋駅 > (きときとライナー) > 五箇山インター口 > 城端SA (約2時間30~40分、要予約)	
金沢	金沢駅東口 > (北鉄バス) > 五箇山菅沼合掌造り集落 (約1時間、要予約)	
	金沢駅西口 > (加越能バス) > 福光駅 > 城端駅 > 井波 (約1時間~1時間20分)	

飛行機・レンタカーの所要時間		
東京	羽田空港 > 富山ときと空港 — 国道41号・北陸・東海北陸自動車道 >	南砺市 (約1時間40分)
東京	羽田空港 > のと里山空港 — のと里山街道・国道249号・能越・東海北陸自動車道 >	南砺市 (約3時間)
東京	羽田空港 > 小松空港 — 北陸・東海北陸自動車道 >	南砺市 (約2時間)
北海道	新千歳空港 > 富山ときと空港 — 国道41号・北陸・東海北陸自動車道 >	南砺市 (約2時間)

- 世界遺産バス**
- 高岡～城端～五箇山～白川郷 (5往復)
 - 城端～五箇山～白川郷 (6往復)

南砺市
NANTO CITY

- 2004年誕生
- 面積：668.64km²
- 人口：49,492人 (2021年1月1日現在)

平成16年(2004)に、8つの町村(城端町、平村、上平村、利賀村、井波町、井口村、福野町、福光町)が合併し、「南砺市」が誕生しました。南砺市は、富山県の南西部に位置し、東に富山市、西に石川県金沢市、南に岐阜県飛騨市や白川村、北に砺波市や小矢部市と隣接しています。面積は東西約26km、南北約39kmと琵琶湖とほぼ同じ大きさを有しています。その約8割が森林を擁し、市内には庄川や小矢部川の一級河川が流れるなど、豊かな自然に恵まれています。近年ではSDGs事業に力を入れており、平成31年には「SDGs未来都市」に選定されるなど持続可能なまちづくりを推進しています。また、住みやすい田舎ランキング北陸1位に輝くなど、移住促進にも力を入れています。

観光のお問い合わせは

一般社団法人 南砺市観光協会
<https://tabi-nanto.jp>

Tel.0763-62-1201
Fax.0763-62-1202
〒939-1852 富山県南砺市是安206-22
営業時間 8:30~17:30

五箇山総合案内所
<https://gokayama-info.jp>

Tel.0763-66-2468
Fax.0763-66-2469
〒939-1914 富山県南砺市上梨754
営業時間 9:00~17:00

写真協力 広川泰士氏

南砺の魅力。あふれる。

驚いた。「温泉」がこんなにあるとは。

五箇山の山間部から里山、町中近くまで、いたるところで楽しめる、南砺のい湯。場所や泉質によって多様な効果をもたらしてくれる温泉は、大地の恵みそのものです。お湯の良さに、自然環境、そこに南砺ならではの土地の魅力が加わった、最高の湯めぐりが堪能できます。

- | 福光 | 五箇山 |
|-----------------|------------------|
| ● ぶくみつ 華山温泉 | ● 五箇山温泉 赤尾館 |
| ● 福光温泉 | ● くらぼ温泉 |
| ● IOX-ヴァルト | ● 五箇山温泉 五箇山荘 |
| ● 法林寺温泉 | ● ふれあい温泉センター ゆ〜楽 |
| ● 福光医王山温泉 ぬく森の郷 | |
| ● 川合田温泉 山田家 | |
| 利賀 | |
| | ● 天竺温泉の郷 |
| 城端 | ● 民宿 利賀ノ家 |
| | ● 大牧温泉観光旅館 |
| ● 桜ヶ池クアガーデン | ● 民宿 ながさき家 |
| | ● 民宿 茂兵衛 |
| 井口 | ● 庄川峡 長崎温泉 北原荘 |
| ● ゆ〜ゆらランド花椿 | ● 古民家の宿 おかべ |

とっておきの南砺の体験・ツアー

なん旅

南砺の魅力に出会う旅「なん旅」。ここに暮らしてきた人々、そして長い年月受け継がれてきた伝統と文化などの出会いから、他では感じられない南砺ならではの体験が、あなたをおもてなしします。見て、触れて、歩いて、味わい、耳をすます。さあ、南砺を感じる旅へ 出かけよう。

楽しさいろいろの体験・ツアーがいっぱい!

なんとし オリジナル・ショートアニメーション

恋旅

True Tours Nanto

富山県南砺市を巡る「3つの恋の物語」
～キミに見せたいものがあるんだ～

富山県南砺市を舞台としたオリジナル・ショートアニメーション、「恋旅～True Tours Nanto～」。

南砺市応援市民

NANTO CITY SUPPORTERS

応援市民制度とは?

● 南砺を応援していただける方を、「応援市民」として登録する制度です。

● 応援市民は、市民とともに地域を支え、盛り上げていただく大切なパートナーです。

詳しくはHPをご覧ください
<https://ouen-nanto.jp>

なんとなんと 南砺市移住ガイド

豊かな自然に恵まれ、歴史や伝統が光る、そして人情豊かでナイスな南砺に暮らしませんか?

詳しくはHPをご覧ください
<https://www.kurashi.city.nanto.toyama.jp>

南砺の風景や祭り、体験を動画でご紹介 **動画ライブラリー**

いつでも、どこでも旅気分
さあ、動画で南砺の旅へ出かけよう

<https://www.tabi-nanto.jp/movie>